明治実業家列伝⑳

山家 豊三郎

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野 正道

城下の武家屋敷街

南北に真っ直ぐ伸びる幅五メートル前後の道。普段は人通りもまばらで静かな道の両側には、百石から六、七百石という仙台藩の中級家臣の屋敷が並んでいます。数百坪から千坪ちかくにも及ぶ広大な屋敷は、土塀や生垣で囲まれ、その内側には沢山の木々が緑の葉を茂らせています。今では想像もつきませんが、東北を代表する繁華街である一番町、以前は「東一番丁」と呼ばれていた場所の、これが百五十年以前の様子でした。

明治維新の大変動は、仙台城下にも大きな影響を与えました。戊辰戦争に敗れた仙台藩の武士たちは、家禄を大幅に減らされ、さらに廃藩置県、秩禄処分といった大きな制度改革の中で、急速に、その生活を困窮させます。屋敷を離れて帰農する者、屋敷を売り払う者、屋敷の一部を貸して生計を維持する者、等々。もともと閑静な街であった東一番丁は、以前にもまして寂れてしまったのです。

新しい商店街

こうしたなか、東一番丁の行く末を決めることになる一つの出来事がありました。通りの中ほど、現在の一番町商店街と広瀬通の交差点北西角に屋敷を持っていた山家豊三郎が、屋敷の一部に建物を設けて小さな店舗を十数戸作り、希望者に貸し出したのです。

もっとも、物さびしい武家屋敷街の一角ということもあり、借り手が付かないことを予想した豊三郎は、まず自分の家来であった近藤文吉に煙草屋を営ませました。また、昼だけではなく夜も人出があることが賑わいのもとと考えた豊三郎は、店を出した者に照明の費用や夜食の握り飯を提供するといった特典を与えました。ほかにも屋敷神であった山家明神（和霊神社）を開放して、ときどき祭礼を行うなど、賑わいの創出に努めました。

こうした策が功を奏し、豊三郎の屋敷を発火点に、東一番丁やその周辺にはいろいろな店が増えていきました。当時の仙台で繁盛していたのは、大町や国分町でしたが、これら江戸時代以来の町には老舗の大店が並び、また地価も高いことから、ここへの進出は容易なことではありませんでした。しかし東一番丁は、新興の町ということで、地価も安く、古いしがらみも少ないため、新しい商売を起こしたい人が店を構えるには好適で、例えば牛肉屋や洋食屋などもできてきました。さらに劇場、芸妓屋もできた東一番丁は、またたくまに仙台有数の繁華街となったのです。

周旋家・豊三郎

山家豊三郎は、天保三（一八三二）年、家禄五百石の藩士の家に生まれました。祖父から砲術を学んだ豊三郎は、仙台藩が幕府から蝦夷地の警備を命じられた際には大砲頭として現地の指揮に当たっています。その後も武官系の重職を歴任した豊三郎でしたが、決して武辺一点張りの人ではなく、時代を見ることのできる柔軟な思考を備えた人物でした。

東一番丁の再生に成功した豊三郎は、その才を見込まれ、石巻に進出する実業家から、店の経営を任されたこともあります。また、明治七（一八七四）年に仙台に公園を造ることになった際には、その実現に尽力しました。豊三郎らによって、広瀬川の河畔、かつて仙台藩の重臣屋敷があった所に作られたのが、今も市民に親しまれている西公園なのです。

明治十五年に出版された「宮城人物見立表」は仙台の有名人を載せた一種の番付ですが、ここで豊三郎は「周旋家」として載っています。さびれかけた武家屋敷街を繁華街、そして公園として再生させた豊三郎は、まさに新しい時代を周旋したと言っても良いでしょう。

晩年、豊三郎は、仙台随一と評された庭園をもつ別邸・清奇園を作り、多くの文化人と交友を深めました。明治二十九年に六五歳で没した豊三郎の足跡は、清奇園の跡地に作られた福祉プラザの庭園と、フォーラス屋上に祀られる和霊神社に、今も息づいています。

たくさんの人で賑わう東一番丁　大正時代前期

仙台市史

最新巻発売　通史編9 現代2

政令指定都市へ飛躍した仙台の軌跡をたどる

◆A5判　635頁　オールカラー　◆定価3000円（本体2858円）

初売りで賑わう一番町買物公園（現ぷらんどーむ一番町）　昭和56年

お求め先　県内主要書店・仙台市博物館／㈱宮城県教科書供給所　TEL.022-235-7181　FAX.022-235-7183

お問い合わせ先　仙台市博物館市史編さん室　〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地　TEL.022-225-3074